
星空の約束

* 真央 *

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空の約束

【Nコード】

N2872Z

【作者名】

真央

【あらすじ】

紗奈は3年前まで一緒にいた雅人を日々探し求めている。

キミはどこにいますか？

ここにはキミがない。(前書き)

連載の恋愛をかくのは
苦手ですが
精一杯がんばります。

ここにはキミがない。

あの中2の夏、

キミと一緒に星空を見上げた。

また一緒について約束したよね？

どうして私の前から消えちゃったの？

” また連れてってやるよ ”

そういったのは嘘ですか？

私はいつまでキミを待てばいいんだろう・・・。

私はキミを信じて・・・信じて・・・
もう3年の月日が流れたよ。

それでもキミという存在を
忘れられない。

深津^{ふかつ まさと} 雅人

×

山岸^{やまぎし さな} 紗奈

キミは、いつか戻ってきますか？

私に．．．笑いかけてくれますか？

ここにはキミがない。(後書き)

どうでしたか？

よかったら感想下さいっ

改善できるよう

努力しますっ

過去の想いは切り裂けない。
(前書き)

遅くなりましたっ

過去の想いは切り裂けない。

「明日から高校2年かー．．．。」

私は桜散る中1人で
ぼそりとつぶやいた。

今は春休み。

もう高校1年は終わり
次の学年に移るとい
うのに
なんで．．．

こんなにも雅人を
探し求めているの
かな．．．。

雅人は一体
何で私の前から
姿を消したの．．．??

あの時・・・
声をかけていたら
何か変わっていたのかな・・・？

中学2年、夏。

帰り道

私は雅人を呼び止めた。

「雅人ー！！」

「ん？どうした、紗奈。」

「今日花火あるんだって！！」

「ふーん・・・行きたいの？」

雅人は

にこにこ笑っている。

「意地悪・・・／＼／」

「ふふ 俺にとっては褒め言葉だし。
で？どうなの？行きたいの？」

「当たり前じゃん！！
行きたいよ。」

「おっけー

じゃあ午後7時に待ち合わせね。」

「わかった！！
じゃあね」

そういつて別れた私達。

私はワクワクした気持ちを
隠しきれずに
頬が緩んでしまう。

「えへへ・・・／／／」

こんなにも
楽しみなのは雅人とだったから。

でもあれは
何かおこる予兆だったのかな。

ねえ
・
・
・雅人？

過去の想いは切り裂けない。(後書き)

なんかよくわからないことになっ
ていたらすみません。(汗)

切なげに微笑む君は儚げに散る予兆。
(前書き)

早め更新ですっ

切なげに微笑む君は儚げに散る予兆。

「待った？」

「ううん 雅人を待ってる間も
なんかワクワクしてたよ。」

「そっか。」

雅人は少し照れながら
ふっと笑みをこぼす。

「じゃ、行くっ。」

「うん！！」

2人で手を繋いで
私は雅人に引かれるまま
ついていく。

でもその向かう先には
公園しかみえない。

「どこ行くの？」

私は花火がみれない違うどこかへ
行くのかと心配になった。

「ん？公園だけど？」

「あ、そうなんだ・・・。」

ほっと息を漏らす。

「どこかへ行くとも思った？」

ふっと切なげに笑う。

「え．．．？」

「心配しなくても
俺はどこにも行かないよ。」

そういつて雅人は微笑んでるのに
なぜか寂しそうにみえたのは
私の気のせい．．．だよな？

「さあ、行くよ。」

「うん．．．。」

少し心掛かりになりながらも
私達は公園に向かった。

切なげに微笑む君は儚げに散る予兆。
(後書き)

必死に恋愛っぽくしようと
頑張り中です(笑)

消えた華、消える言葉、今あり続ける私達。（前書き）

遅くなりましたっ

なんかシリアスっぽい??

消えた華、消える言葉、今あり続ける私達。

「わあ．．．綺麗．．．／／／」

「でしょ？穴場だったんだ。」

私達は公園の芝生に座り込む。

ドーンと大きな音を鳴らし
鮮やかな華を咲かす。

赤、ピンク、緑、青．．．。
色んな華が夜空を照らしている。

「すごいね．．．／／／」

「だな。すっごい綺麗だ．．．」

少し感傷に浸る。

そんな思いから

1つの疑問が浮かんだ。

来年の夏もまた雅人と

花火みれるかな？

って。

「ねえ、雅人。」

「ん？」

「また、来年も一緒に来てくれる？」

雅人は私の疑問に目を見開く。

「．．．ああ。」

ゆっくりとその表情は微笑みに変わった．．．けど

なんだか違和感があった。

何だろう・・・。

「心配するな。また、来よう。」

「うん・・・。」

私達が話している間に鮮やかな華達は
儚く消えていった。

「あ・・・花火終わっちゃった・・・。」

「ほんとだな。でも、まだ楽しみはあるから。」

「え・・・？」

「ま、ここで寝転がってみて。」

「え・・・？」

「じいであって・・・芝生で？」

「まあいいからさ。」

「うん．．．？」

意味も分らず言つままに寝転ぶ。

すると雅人は何故かカウントダウンしだした。

「5、4、3、2、1．．．。」

「え？」

訳も分らず戸惑い
横にいる雅人を見つめる。

「ほら、夜空見て？」

「え．．．。」

雅人から目を離して上を見上げると
夜空には星が降ってきた。

「何これ．．．？」

「流星群。」

「へ．．．？」

「流れ星みたいなものだよ。」

「そうなんだ．．．。」

降ってきてはすぐに消え
また降ってくる。

消えても消えても現れる。

「流星群はすごいよね。」

「え？何が？」

確かに降る量がすごいけど．．．。

「消えてもまた降ってきて
俺らの前に現れる。」

「ああ、そうだね。」

「消えているのにまた姿を現すのは
すごい勇気があるはずなのに星には簡単なのかな。」

．．．簡単かな．．．？

「うーん．．．私は簡単じゃないと思うけど
一生懸命だからいいんじゃないかな。」

「そっか．．．。」

でも何でそんなこと
思ったのかな．．．。

何で．．．？

今思えばそれが
私に残した言葉だったのかな。

消えた華、消える言葉、今あり続ける私達。(後書き)

頑張리中ですっ

あ、明日で学校終わりだb

ヤッタネ(ニヤリ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2872z/>

星空の約束

2011年12月21日22時54分発行